

7月20日に群馬県太田市で「1%まちづくり事業について」、7月21日に栃木県足利市のこころみ学園で「こころみ学園の取り組みについて」、7月22日に山梨県都留市で「小水力発電「元気くん!!」の取り組みについて」視察を行いました。

・1%まちづくり事業について

1%まちづくり事業は、全国でも様々な形態で展開されている事業です。今回はまちづくり、環境など多くの点で注目を浴びている太田市の取り組みを視察しました。

太田市では、地域コミュニティをより活性化させることを目的に、市税の1%を財源として、まちづくり事業を平成18年度から実施しています。

内容としては、「住民と行政が一緒になってまちづくりを行う」事業。地域の人たちの知恵と労力により市税を2倍・3倍に有効活用しようとするもので、行政依存型の補助金とは異なったものでした。事業例としては、総社市でも行っている自治組織活性化支援事業の花いっぱい事業や地域防犯活動などもあります。また、本市と異なる点は、上限額もなく、様々な内容があることでした。

太田市では、市税の1%は3億7,000万円ですが、現実には約3,000万円にとどまっています。それまで実施されていた補助金はかなり精査され、まさに市税の有効活用であるように思えました。本市にとって大いに参考になる事業でした。

・こころみ学園の取り組みについて

こころみ学園は、1980年代の初めに知的なハンディを持つ人たちの自立を目指して作られた知的障害者更生施設です。85歳の方を筆頭に90名の利用者がいます。

私たちが施設に到着した時は、利用者がシイタケの栽培のための木を山に運んでいる作業中。元気に挨拶やタッチをしてくる人たちに圧倒されました。

現在では、ワインを作るためのブドウ栽培とシイタケ栽培が主な仕事。山肌に作られた傾斜38度のブドウ畑は、見る人を感動させる手作りのブドウ畑。下から順番に草むしりをして行き、頂点に達するころにはまた下には草が……。創立者の故川田昇氏曰く「常に仕事があることが、この人たちの元気の源」。よって、雨の日以外は休業日はありません。

ただ、こころみ学園の課題は、2分の1が高齢者。介護が必要になる今後が心配であるとのこと。しかし、この問題は、障がい者1,000人雇用を考えていく本市にとっても大事な問題です。

朝日を浴びて、かなり太い木を列になって楽しそうに運んでいた姿がまぶ



こころみ学園の利用者が開墾したブドウ畑

しく、印象的でした。

・小水力発電「元気くん！！」の取り組みについて

小水力発電「元気くん！！」は、平成16年4月29日の都留市制50周年を記念して、水のまち都留市のシンボルとして、これまで取り組んできた環境計画・エネルギービジョンの中で、利用可能なエネルギーとして最も期待される小水力発電を設置しました。市役所を供給先とするもので、平成23年度には市役所の消費電力の約80%を補うまでになりました。

市役所庁舎前を流れる家中川に設置した最大20KWの発電能力を有する直径6mのドイツ製の木製水車が印象的。全国から視察が絶えません。導入にはNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）からの補助や国からの補助も活用。更に画期的なのは、「つるのおんがえし債」という市民参加型ミニ公募債。多くの市民の力が生きていることに感動。現在2号機まで出来ていますが、今年度は3号機が完成します。年々発電量も増え、CO2削減は言うまでもなく、河川のゴミの減量にもなったようです。

しかし、元気くんの完成には、行政の取り組み、学術機関の取り組みに加え、忘れてならないのは市民グループの取り組みです。昭和13年に山梨県内でいち早く水力発電を導入して電気の光を灯し、地域を発展させたことを誇りに思っていた市民や東電OB、教員OB、青年会議所のメンバーなどが集まり、都留水エネルギー研究会が結成され、運動を行いました。ここでも市民力を大いに感じる事となりました。



市役所前に設置された「元気くん1号」